

達成指標の進捗状況

重点 取組	達成指標	R 3 年度	R 7 年度		R 9 年度
		現状	計画	実績	目標
1	新規就農者数（49 歳以下）	41 人/年	30 人/年	32 人/年	30 人/年
	I ターン就農者数	8 人/年	8 人/年	8 人/年	8 人/年
2	日本なしの早期多収省力栽培技術導入面積	4.6ha	8 ha	10.7ha	10ha
	担い手への市田柿集積面積 （農地中間管理事業）	5.7ha/年	6 ha/年	21.9ha/年	6 ha/年
3	きゅうり・アスパラガス施設面積	36ha	38.5ha	39.9ha	39.5ha
	農業用ドローンによる防除面積	21ha	180ha	173.2ha	198ha
4	基幹的な農業水利施設の整備箇所数（計画期間内整備量）	—	3 か所	2 か所	5 か所
	防災重点農業用ため池の耐震性診断実施箇所数	9 か所	23 か所	27 か所	31 か所
5	都市農村交流人口	38,882 人	186,000 人	人 (R8.8 確定)	200,000 人
6	学校給食における県産食材の利用割合 （品目ベース）	53%	54.1%	47.4%	55%
	学校と連携した地域農産物に係る情報提供の回数	—	6 回/年	7 回/年	6 回/年

重点取組 1：皆が憧れる農業の担い手の確保・育成

- 県、市町村、J A が連携し、地域の特徴を踏まえた就農作戦会議や相談活動による担い手の確保
 - ・ 市町村・J A と連携した相談活動及び就農作戦会議の開催（全体 1 回、4 地域各 1 回）
- 研修事業及び経営発展支援等の充実による地域農業をリードする担い手の育成強化
 - ・ 就農 5 年以内の者の経営管理能力向上を目的としたスキルアップセミナーの開催（8 回）
- 中核的経営体の資質向上及び多様な担い手の支援
 - ・ 他産業従事後に農業経営を開始する者等を対象にした帰農塾の開催（基礎講座 4 回、専門講座 6 品目のべ 29 回）
 - ・ 農業参入を目指す食品企業に対する農業経営改善計画の作成など基盤確立に向けた支援（打合せ 7 回）



【スキルアップセミナー】

重点取組 2：新技術や新品種の拡大による競争力の強い果樹産地づくり

- 日本なし産地再生プロジェクトにより、J A 等関係機関と連携し、担い手確保、新たな技術の導入及び園地の整備等に取り組み、稼げる産地の再構築を推進
 - ・ なし栽培 5 年以内の生産者のレベルアップを図るため、重点対象者の巡回指導の実施及び省力樹形栽培実践講習会を開催（4 回）、新規就農予定者を対象としたサンデー日本なし講座の開催（6 回）
 - ・ 「天空のしずく」の現地導入に向けた検討会の開催（1 回）
- 市田柿の円滑な樹園地継承と「市田柿+α」複合経営の推進
 - ・ 市田柿ブランド推進協議会等と連携した樹園地継承の検討（3 回）、栽培・加工技術研修会（2 回）、生産加工販売反省会（1 回）の開催
 - ・ 新規就農希望者及び里親研修生への「市田柿+きゅうり」複合経営モデルの提案（6 人）



【市田柿栽培・加工技術研修会】

重点取組3：南信州らしさを生かした複合産地の構築

- きゅうり・アスパラガス・白ねぎの生産安定
 - ・ 担い手によるきゅうりの産地力強化のための環境モニタリングシステムの導入（3経営体）と現地研修会の開催（3回）
- 南信州牛（信州プレミアム牛肉を含む）・銘柄豚などの生産拡大及び家畜防疫対策の徹底
 - ・ 農場HACCPの啓発及び飼養衛生管理基準の周知等による家畜防疫対策の徹底（肉牛農家73戸、養豚農家12戸、養鶏農家10戸）
- スマート農業技術の導入による省力化や生産性向上の推進
 - ・ 農業用ドローンを利用した水稻斑点米カメムシ類等の集団防除の取組拡大支援（2か所）及びスマート農業ミニ講習会（環境モニタリングシステム）の開催（5回）
- 環境への負荷を低減した有機農業等の環境にやさしい農業の推進
 - ・ いちごのグリーンな栽培体系の検証（1か所）
- 気候変動に対応した技術の導入及び経営継続のためのリスク対策の推進
 - ・ 施設園芸（花き）における暑熱対策の検討



【遮熱対策試験】

重点取組4：皆でつなぐ豊かな農村

- 地域の話合いにより守るべき農地と担い手を明確化
 - ・ 地域計画を進めるための地域の話合いや取組を支援（14市町村）
 - ・ 地域計画の実践を通じた担い手の確保と農業基盤の整備を推進（1地区）
- 伝統野菜や茶などの豊かな食文化や栽培技術の継承を支援
 - ・ 生産者や飲食店等で組織する「南信州伝統野菜協議会」の活動支援（7回）
 - ・ 茶産地維持のための有機栽培体系の実証試験の実施（3か所）、共進会の実施（1回）
- 集落機能を維持するため、野生鳥獣被害対策などを支援
 - ・ サル、ハクビシン等を対象とした電気柵の展示・設置（10か所）と設置講習会の開催
- 農村の多面的機能の維持と活用促進
 - ・ 多面的機能支払交付金を活用し、農地・水路・農道等の保全活動及び補修・補強・更新等の質的向上活動を支援（12市町村）
- 水路など農業用施設の長寿命化、農村地域における防災対策の推進
 - ・ 竜東一貫水路の補修工事（1か所）及び防災重点農業用ため池の耐震性診断の実施（5か所）



【竜東一貫水路の補修工事】

重点取組5：リニア新時代 世界に通用する農村交流の体制構築

- つながり人口増加を見据えた直売所の支援、「観光＋農業」の推進
 - ・ クラインガルテン利用者と地元管理組合との野菜栽培を通じた交流促進支援（3回）
- 伝統野菜、南信州牛など地域食材等を取り入れた「食」を介した交流の促進
 - ・ 生産者と飲食店の連携による地域食材の魅力を発信するイベントの開催支援（4回）
- 食品企業等との連携による地域農畜産物の活用を促進
 - ・ 地域の菓子店とタイアップした日本なしを使用した菓子等商品開発の支援とPRの実施（9事業者、11商品）



【南信州伝統野菜フェア】

重点取組6：農や食への理解醸成

- 農業体験会の開催など教育現場や飲食店関係者等との協働による食育・農育の強化
 - ・ 小学生を対象とした市田柿等の食育事業を実施（3校）
- エシカル消費を推進するため、地域農畜産物などの利用を促進
 - ・ 教育事務所と連携し、飯田下伊那栄養教諭・学校栄養職員部会へ地域農産物利用促進に向けた情報を提供（7回）
- 市田柿など地域農畜産物の魅力発信
 - ・ 市田柿活性化推進協議会と連携し、県外イベントでの市田柿のリーフレットの配布による情報発信（1回）



【小学生の食育事業】